

東京芸術祭 2020 野外劇事業計画

1. 事業枠組み：

主催 東京芸術祭実行委員会〔豊島区、公益財団法人としま未来文化財団、フェスティバル/トーキョー実行委員会、東京芸術劇場・アーツカウンシル東京（公益財団法人東京都歴史文化財団）〕

東京芸術祭総合ディレクター

宮城聡（演出家、SPAC-静岡県舞台芸術センター芸術総監督）

会期 準備：6月

稽古：7月（1週間程度）、9月（1週間程度）、10月（10日程度）

本番：2020年10月15日（木）～10月25日（日）

会場 池袋西口公園野外劇場

全体スケジュール（予定）

日 程	場所・会場	内 容
6月	都内	準備作業
7月	都内	立ち稽古
9月	鳥の劇場（鳥取県）	立ち稽古、GP（第1回）
10月12日～10月14日	池袋西口公園野外劇場	会場搬入・仕込み
10月15日～10月25日	池袋西口公園野外劇場	公開GP、本番（10回程度想定）
10月26日	池袋西口公園野外劇場	会場撤収・搬出

※上演は1日に1ステージ、17時30分から19時まで予定。

事業担当 東京芸術祭実行委員会事務局 尾崎浩実

（アーツカウンシル東京企画室企画助成課アソシエイトディレクター）

2. 内 容：

東京芸術祭 2020 野外劇

東京芸術祭において宮城聡総合ディレクターが提唱した3つのコンセプト「ひらく」「きわめる」「つながる」のうち、ワンコインで観劇できるハイクオリティな野外パフォーマンスを上演し、これまで劇場に足を運んだことのない人々が初めて舞台演劇に触れる機会と、まちなかの賑わいを同時に創出する「ひらく」を体現するプログラム。

【作 品】

如月小春「NIPPON CHA!CHA!CHA!」（1988）

●作

如月小春

劇作家、演出家。1956年東京都生まれ。劇団「NOISE」を主宰、音楽の生演奏、映像などとのコラボレーションから、従来の演劇の枠にとらわれない多くの実験的舞台を生み出す。代表作に「ロミオとフリージアのある食卓」「家、世の果ての…」「MORAL」「MOON」「夜の学校」など。また、創作者としての活動にとどまらず、周辺環境整備にも尽力し、アジア女性演劇会議実行委員長・日本ユネスコ国内委員会委員・兵庫県立こども館演劇活動委員・立教大学講師なども歴任した。2000年12月、逝去。享年44。

●演出

中島諒人（なかしま・まこと）

演出家。鳥の劇場芸術監督。1966年生まれ。大学在学中より演劇活動を開始。2004年から1年半、静岡県舞台芸術センターに所属。2006年より鳥取で廃校を劇場に変え、「鳥の劇場」をスタート。二千年以上の歴史を持つ文化装置＝演劇の本来の力を社会に示し、演劇／劇場の深い価値が広く認識されることを目指す。演出作「老貴婦人の訪問」（デュレンマット）、「剣を鍛える話」（魯迅）、「三文オペラ」（ブレヒト）、「葵上」（三島由紀夫）など。2003年利賀演出家コンクール最優秀演出家賞。2010年芸術選奨文部科学大臣新人賞。BeSeTo 演劇祭日本委員会代表。